

ミーティングの 10のステップ



子どもたちとつくるミーティング（サークルタイム）を、10のステップに分けて詳しく見ていきます。
園で取り組む際には、まずは1つずつ、ステップを踏みながら進めていきましょう。
『保育ナビ』の毎月の連載では、現場の先生方からの疑問に、ステップごとに青山先生が答えています。
本資料と併せて、ご活用ください。

ステップ概要

ステップ0

本音を出せる環境があるか

ステップ1

集まる

ステップ2

耳を向ける

ステップ3

声を出す

ステップ4

傾聴する

ステップ5

話す

ステップ6

会話する

ステップ7

考える

ステップ8

意見を出す

ステップ9

考え合う

ステップ10

そしてまた暮らしへ

ステップ3

声を出す

● まずは子どもの名前を呼ぶ

椅子を車座に並べたら、まずは子どもの名前を呼びます。「ハイ」とか、「ワン」とか、手を少し挙げてみるとか、いろいろな反応が返ってきます。

これは仲間であることの確認でもあり、その場に自分を出す、はじめの一歩です。ただし、最初はなかなかハードルが高い子も。照れているからふざけたり、顔が真っ赤になっちゃったり。

ですから、ミーティングのはじめに名前を呼ぶという順序にこだわらなくてもOK。みんなが緊張していたら、まずはおとながしゃべって場をほぐしてあげてからでもいいのです。

● 持ち物や表情から「声」を拾ってみる

また、その場で自分を出すのは声でなくてもいいのです。たまたま握りしめているブロックや折り紙、なんだか気になる表情。その子がなにかし

ら「表現しているもの」を保育者が拾います。「そのブロックちょっと見せて。これで遊んだの？」「その折り紙さっき折ってたよね。だれに教えてもらったの？ え、自分で覚えたの？ 本見て？」「なんかさ……、〇〇ちゃん、怒ってる？」

保育者が拾ってあげると、「えっとね、これはね、さっきね」と子どもがしゃべり出しやすくなります。その場で自分を出すことに慣れてきて、次第に子どもたちからもみんなに見せたいものを持ち込んでくれます。「ザリガニつかまえたんだけどさー、みんな、みる？」「これ、ママにプレゼントするの」などなど。

ここで大事なものは、言葉にならない子どもの「声」を拾うこと。日常的に、保育者は「子どもの声」に耳を澄ましています。子どもの表情や行動、居る場所、姿勢、持っているものなどから、その子の声を拾っているわけです。